



## 除染など喫緊の課題を早急に

〔平成25年9月市議会〕

(原町区／高橋 真さん)

2011年3月11日に発生した、東日本大震災から2年半が経ち、津波によるがれきの撤去、警戒区域の解除など、少しずつ目に見える形での復旧が進んでいるものと感じています。

しかし、新たな地域づくりや街づくりに関する復興へ向けた具体的な施策はあまり聞こえてきませんでした。

そこで今回、市のホームページに出ている市議会一般質問の件名表を調べ、気になった内容の質問をされる議員のやり取りを見るため、9月議会を傍聴させていただきました。

一問一答方式でのやり取りは、質問の主旨及びそれに関する回答が非常に理解しやすく感じました。

インターネットでの議会中継もしていますが、生の市議会は臨場感があり、みなさんも一度ご覧になれば、少なからず政治に対する興味が湧き、今後の選挙における候補者選定の参考となるのではないのでしょうか。

一つ残念だったのは、入口に用意されている資料の中に、補正予算案に関するものがなかったこと。

予算は、現時点での市の方針・考え方を最も如実に、そして最も簡潔に表しているものだと思いますので、今後ご検討ください。

最後に、除染及び防災集団移転・災害公営住宅建築といった喫緊の課題を早急に完了するとともに、企業誘致並びに新産業創出による復興を加速させてくださることを期待しております。

あれほど毎日が暑かった夏も気がつくとも虫の音を奏でる季節となりました。  
大震災と原発事故から2年半以上が過ぎても復旧・復興に大きなうねりを感じることはできませんが、季節の移ろいと同じように気付かれないながらも確実に作業は進んでいます。  
まだまだ苦難が続くと思われませんが、一人ひとりが諦めず前を向いて進むことが今一番大切なことと感じています。  
そうした環境づくりを目指し市民の皆さんとの意見交換会を議会として取り組みました。直接お会いし様々なご意見を伺うことは、それぞれが抱えている想いが如実に伝わってきました。一つでも多くの想いの実現のために議会も前を向きながら取り組んでいきます。  
季節は、涼やかなものから身にしみる寒さに向かっています。草花は寒さの中、確実に訪れる春に再び花を咲かせようと耐え忍びます。南相馬市の春を皆さまで一緒に迎えることができるよう、これからもご愛ください。

山田 雅彦

## 12月の定例会（予定）

- 12月4日(水)  
本会議…会議録署名議員の指名、会期の決定、諸般の報告、決算審査特別委員長報告、議案の提出及び説明
- 12月9日(月)・10日(火)・11日(水)  
本会議…一般質問
- 12月12日(木)  
本会議…議案に対する質疑、委員会付託
- 12月13日(金)  
委員会…総務、文教福祉、建設経済常任委員会
- 12月18日(水)  
本会議…委員長報告（質疑、討論、表決）

※この日程は変更されることがあります。

議会を傍聴する際には、日程をご確認下さい。

●問い合わせ…議会事務局 ☎24-5311

### 市議会ホームページ・本会議インターネット中継をご覧ください

市議会のホームページには、市議会の概要や本会議情報、議員名簿、会議録（本会議）などを掲載していますので、ご覧ください。

また、議会の様子を広く市民の皆さんにお知らせするため、本会議のインターネット中継を実施しています。インターネット中継では、生中継と録画配信（本会議のおおむね5日後）でご覧いただけます。あわせてご覧ください。

下記のアドレスへ、アクセスしてみてください。

南相馬市ホームページ <http://www.city.minamisoma.lg.jp/>

## 広報広聴特別委員会



委員長  
(左前より) 小川 尚一、鈴木 昌一、奥村 健郎、田中 京子、田中 一正  
副委員長  
(右前より) 荒木 千恵子、土田 美恵子、山田 雅彦、小林 正幸

## 編集後記

あれほど毎日が暑かった夏も気がつくとも虫の音を奏でる季節となりました。

大震災と原発事故から2年半以上が過ぎても復旧・復興に大きなうねりを感じることはできませんが、季節の移ろいと同じように気付かれないながらも確実に作業は進んでいます。

まだまだ苦難が続くと思われませんが、一人ひとりが諦めず前を向いて進むことが今一番大切なことと感じています。

そうした環境づくりを目指し市民の皆さんとの意見交換会を議会として取り組みました。直接お会いし様々なご意見を伺うことは、それぞれが抱えている想いが如実に伝わってきました。一つでも多くの想いの実現のために議会も前を向きながら取り組んでいきます。

季節は、涼やかなものから身にしみる寒さに向かっています。草花は寒さの中、確実に訪れる春に再び花を咲かせようと耐え忍びます。南相馬市の春を皆さまで一緒に迎えることができるよう、これからもご愛ください。

山田 雅彦